

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第二十主日礼拝のしおり

2021年10月10日

前奏

招きのことば：詩編 90 編 12-17 節

生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように。

主よ、帰って来てください。いつまで捨てておかれるのですか。

あなたの僕らを力づけてください。

朝にはあなたの慈しみに満ち足らせ 生涯、喜び歌い、喜び祝わせてください。

あなたがわたしたちを苦しめられた日々と 苦難に遭わされた年月を思って

わたしたちに喜びを返してください。

あなたの僕らが御業を仰ぎ 子らもあなたの威光を仰ぐことができますように。

わたしたちの神、主の喜びが わたしたちの上にありますように。

わたしたちの手の働きを わたしたちのために確かなものとし

わたしたちの手の働きを どうか確かなものにしてください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは今朝も御言葉によって私たちに信仰を与え、強めてくださいます。罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただきます。ここから私たちの新しい一週の歩みが始まります。

あなたは御言葉を聞く私たちをここから生活の場に送り出してくださいますが、あなたはまた生活の現場にも来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそ、あなたに導きを受け、あらゆる災いから守られ、更に隣人の力になれるように鍛えていただきます。新型コロナ・ウィルスの感染が広がっており、緊張感を保たなければなりません。その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヘブル人への手紙 4章 12-16節

というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、あわれみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

福音書朗読：マルコによる福音書 10章 17-31節

イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧

しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」ペトロがイエスに、「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いだした。イエスは言われた。「はっきりしておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

讚美歌 399 番

1. 悩むものよ、とく立ちて、恵みの座にきたれや

※ 天の力に癒し得ぬ 悲しみは 地にあらじ

2. 幸(さち)なき身の 慰めや、悔やめる身の 望みや ※

3. 見よ、いのちの 真清水(ましみず)の 御座より湧きいづるを。 ※ **アーメン**

説教：「天に宝を積む」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は私たち人間の罪を赦し、永遠の命を与えてくださるために、人となってきてくださいました。人として歩み、人として十字架につけられて、私たちの罪の裁きを私たちに代わって受けてくださいました。イエス様は神さまです。イエス様が私のために死んでよみがえってくださったと信じ、イエス様とひとつにされる洗礼を受けるものはこの赦しといのちにあずかります。

イエス様はまず私たちの力の限界を見せてくださいます。それは自分で自立して歩んできた私たちにとって辛いことです。でも、私たちは同時にふたつのものに信頼することはできません。心の最も深いところで、イエス様に信頼しながら、同時に自分のよい行いや、自分のもっている富や財産、自分が置かれている地位や名誉にも信頼することはできません。どちらかを本当に信頼して、どちらかを予備にしています。よいお医者さんがまず患者さんの病んでいるところを的確に見つけて教えてくださるように、イエス様は私たちが本当に信頼しているものを教えてくださるのです。

イエス様はエルサレムへと旅に出ようとされていました。イエス様はそこで十字架にかかることをご存じでした。そのときある人がイエス様のもとに走り寄ってきました。近く来るとイエス様の前でひざまずきました。突然のことに一緒にいた人たちは身構えたかもしれませんね。その人は自分のことをこのイエス様に認めてほしいと思って、イエス様に尋ねました。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには何をすればよいのでしょうか。」永遠の命は、この人にとって最後の目的でした。今も、死んだ後も、神の国に生きていきたい、という願いです。救われたい、神の子どもになりたい、という願いです。

イエス様にどのように尋ねるか、イエス様にどのように願うか、という言葉の中に、この人の前提になっている考えが表れています。この人は、永遠の命を受け継ぐために、何をすればよいか、と尋ねています。ということは、何かをすれば永遠の命を受け継ぐことができる、という前提を持っていたということですね。イエス様を善い先生、と呼んでいるのは、イエス様は完ぺきなよい行いをしている先生なので、この先生から何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるのか、ぜひとも聞いておきたい、ぜひとも自分はすでによくやっているので永遠の命から遠くないことを聞かせてもらいたい、確信を得ておきたい、と考えていたようですね。

しかし、イエス様はまずその人の限界を自分でわかるようにお話しされました。その人が大きな考え違いをしていたからです。自分で何かをすることで罪の赦しや永遠のいのちを受け継ぐことはできません。自分が心から努力して善い人になったら、そのご褒美に神様が永遠の命を与えてくださる、というわけではありません。罪の赦しや永遠のいのちは人間の手の届くところにはありません。根本的なところでこの人は考え違いをしていました。

ですからイエス様はまずこの方が自分の努力と引き換えに神様が永遠の命をくださると思込んでいたところに気づかせてくださいました。

イエス様は、なぜわたしを善い先生というのか、と言われ、殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え、という善いことを聖書が教えていることはわたしに聞かなくてもあなたはすでに知っているはずだ、と言われました。その人は、そうです、私は小さい時から全部守っています、と言いました。この人は自分では善い行いをしてきたがまだ確信がない、ということをごひざまずいたまま話しています。このようにイエス様はそこまで努力しながら自分が永遠の命を受け継ぐ者であるという確信をもっていないことに気づかせてくださいました。さらに、自分のまだ知らない善い行いをもっと努力して行えば、それと引き換えには永遠の命をもらえるのではないかと、いう期待をもっていて、それが思い違いであることを知らせるために、イエス様はこの人が困ることを知っていて、そして慈しみをもって導いてくださいました。持っているものをすべて貧しい人々に与えてからわたしに従いなさい、と言われたのです。この人は驚きました。資産家だったからです。自分の持ち物、財産を全部売って人に与えて手放すことは想定外でした。それでその言葉を聞いて気を落とし、悲しみながらそこを去っていきました。ふたつのことに気づかされたのです。自分は結局持ち物に信賴してい

たこと、これがなくなると自分ではなくなると思っていたことに気づかされました。また、自分が善い行いと引き換えに永遠の命を受け継ぐと考えていたら、永遠の命をもらえるだけの善い行いは自分にはとうていできないということに気づきました。

これを見ていた弟子たちは驚きました。イエス様は、金持ちが神の国にはいるのはらくだが針の穴を通るより難しい、と言われました。弟子たちは驚き、お互いに、では誰が救われるのだろう、誰も救われる人はいないのではないかと話しました。財産は神様の祝福です。この人は財産をもっており、さらに善い行いに努めていたのですから、財産もなく、善い行いも心もとない弟子たちにとっては、この善良な人ほど神の国に近い人はいないと考えていたのです。この人がだめなら、いったい誰が救われるのか、と考えたのも無理はありません。

ここでイエス様は弟子たちを見つめて言われました。「人間にはできない。しかし、神にはできる。神はなんでもできるからだ。」そうです。善い行いと引き換えに救われることは人間にはできません。この人がそれを証明しました。けれども、なんでもおできになる神様にはその人を救うことができるとイエス様はおっしゃったのです。なんでもおできになる神様は、わたしたちのすべての罪を赦すために、その独り子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださったのです。私たちの善い行いと引き換えにではなく、神様がそう決めて、私たちのために、神様が独り子イエス様を与えてくださったのです。神様がわたしを赦すために独り子のイエス様を与えてくださるなんて、という、不可能に思うこと、ありえないと思うことを神様はしてくださりました。神様はその全能の力を、あなたや私の罪を赦して、新しい命を与えるために発揮してくださいました。この人が走り寄ってひざまずいたとき、ちょうどイエス様はこの人のためにも十字架にかかってくださるためにエルサレムへと旅をはじめるところだったのです。

弟子たちは自分の力で神様から救いを獲得するのではないこと、イエス様のご自分の死と復活によって私たちを救ってくださる救い主であるということに信頼することを教えられました。

ペテロがここでも弟子を代表して、私たちはこの通り何もかも捨ててあなたに従ってきました、と言いました。あの金持ちの人ができなかったことを、自分はできている、と言っています。イエス様は、罪の赦しをいただくと同時に与えられる新しい命によって、私たちはこれまでできなかったことをし、したいと思わなかったことを行うようになるといわれます。それは、ペテロの従順な態度がペテロ自身から出たのではなく、神の言葉の力、すなわちイエス様がペテロに、私に従ってきなさい、とおっしゃったそのみ言葉の力だったのでしょうか。あの徴税人ザアカイも、イエス様に会った喜びによって、持ち物の半分を貧しい人に施し、自分が徴税人として規定以上に取り立てたものを四倍にしてその人に返して償う、と自発的に言いました。このように、イエス様に会ったとき、たしかに赦された感謝から新しい命が実を結びます。

さらにイエス様はペテロに言いました。イエス様に従っていくとき、この世では迫害を受けるなどして苦しいこともあるけれども、神様に従うために自分では、これは捨てた、と思つたも

のを、神様から百倍返しの祝福をいただくことになるばかりか、永遠の命を受け継ぐことになるといわれました。私たちはイエス様によって罪の赦しをいただくとき、同時に善い行いをする新しい心が与えられて天に宝を積むことになるということです。イエス様によって罪を赦していただくと、この世で苦しいことは確かに味わっていきますが、しかしこの世でも自分の力で手に入れることができないような身に余る祝福に恵まれ、さらに次の世でも永遠のいのちを受け継ぐと約束されています。

走り寄ってひざまずいた人は、自分の善い行いと引き換えに永遠のいのちをいただけるという思い違いをしていました。人ががんばって行う善い行いは限界があります。必要なら自分はその限界を突き破ってがんばっていくぞ、と思っていたこの人に、善い行いを完全にすることはできないこと、不可能であることを気づかせてくださいました。しかし神様には不可能はありません。神様は私たちの罪を赦すために、独り子のイエス様をおくってくださいましたのです。そしてイエス様が私のために十字架でしんでくださったことを身に余る恵みとして感謝し、洗礼にあずかって神の子としていただくとき、新しい命が与えられ、私たちはイエス様のゆえに確信をもって、善い行いの実を結んで歩んでいきます。

最後にイエス様が言われたことばを見てください。先の人があとになり、後の人が先になるといわれました。自分が善い実を結んだとき、それはイエス様からいただく罪の赦しと新しいいのちの結んだ実としての善いわざなのですが、知らず知らずのうちにそれは自分の力で行ったわざである、といい気になってしまうことがあります。自分の結ぶ善い実を見て、それに信頼してしまうということです。神様を気持ちよくほめたたえている自分がある、自分のことよりも人に役立つことを考える自分がある、やっぱり自分ってすごいな、何もかも捨ててイエス様に従ってこれたのだ、私も大したものだ、とそこまで思う人は少ないでしょうけれど、でも何か自分が小さな善い実を結んでいることに満足して、いい気になってしまうことはあるでしょう。そこに、自分でしたこと神様の恵みを得ることになる、という考え違いがいつも入ってきてやすいものです。そうすると、先にいたのに後になっていきます。後ろにいた人が先にいくこととなります。

むしろ、自分が小さくても天に宝を積むような善い行いができたなら、自分のその善い行いと引き換えに永遠の命がいただけるという思い違いに帰ってしまわないで、むしろ、それはイエス様から罪赦されて新しい命をいただいたその大きな贈り物が原因であることを覚えて、自分への信頼をやめて神様に感謝しつつ歩みましょう。いつもイエス様の与えてくださる罪の赦しと新しい命に焦点をあわせて、悔い改めて感謝をして歩むことですね。

今朝も神様は私たちにあらためて語ってくださいました。善い行いと引き換えに永遠の命にあずかるのではなく、神様の恵みによって与えてくださった救い主イエス様の十字架と復活によって永遠の命にあずからせていただくことです。信じて洗礼を受けるものは救われます。そして、永遠の命が与えられると私たちは善い実を結びます。この一週間も、イエス様がおつかわ

しくださるところで、私たちは罪赦されたもの、新しい命をいただいたものとして、神様をほめたたえ、自分を鍛え、出会う方々と幸せを分かち合う一週間となりますように。

イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」マルコ 10:21

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 502 番 献金 献金感謝の祈り

1. いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす
主よりたまわる 天(あめ)の糧に 飢えしこころも 飽き足らいぬ
※世にあるかぎり、きみのさかえと いつくしみとを かたりつたえん
2. 救いの恵み 告ぐる我は 楽しみあふれ 歌とぞなる、
滅びをいでし この喜び、あまねくひとに 得させまほし ※
3. くすしき恵み あまねく満ち あるに甲斐なき 我をも召し
あまつ世継ぎと なしたまえば たれか洩るべき 主の救いに ※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏